

平成 30 年度 学校評価アンケート結果・分析

1 全体（中間との比較）※「とてもそう思う」「まあまあそう思う」と答えた割合

	項目内容	29年度	30年度中間	30年度最終(差)
(1)	本校の学校の重点目標は適切である	90%	96%	95%↓(-1)
(2)	充実した高校生活を送っている	92%	94%	95%↑(+1)
(3)	授業や検定に一生懸命取り組んでいる	92%	95%	96%↑(+1)
(4)	部活動に一生懸命取り組んでいる	90%	95%	94%↓(-1)
(5)	ルールやマナーを守っている	86%	91%	87%↓(-4)
(6)	先生は授業や資格取得の指導に熱心である	89%	94%	92%↓(-2)
(7)	学校は生徒の進路実現のために努力している	88%	93%	93%(±0)
(8)	学校は生活指導に力を入れている	90%	94%	95%↑(+1)
(9)	学校は生徒が相談できる雰囲気がある	75%	79%	78%↓(-1)
(10)	学校からの連絡や配布物は保護者に届いている	87%	92%	92%(±0)
(11)	授業が分かりやすく理解できている	—	86%	84%↓(-2)
(12)	「いのち」と真剣に向き合う教育の実施	—	89%	86%↓(-3)
(13)	国分中央高校に入学してよかったと思う	—	93%	92%↓(-1)

(5)「生徒はルールやマナーを守っている。」(-4%)

中間時点に比べ、保護者・生徒・職員三者とも下落した。学年で見ると、1学年・3学年が著しく下落しており、高校生活への慣れ・進路決定後の意識の低下が現れたのではないかと推察される。

(1年 93.5%→88.4% 2年 89.4%→88.9% 3年 90.3%→86.1%)

(6)「先生方は、授業や検定取得対策指導に熱心である。」(-2%)

中間時点に比べ、保護者・生徒が下落した。生徒の評価は全学年を通して下落しており、中でも1学年の下がり幅が大きい。一方、保護者の評価を見ると3学年の保護者は先生方の学習指導に満足しているが、2学年の保護者は満足度が低下していることが伺える。

(1年生徒 94.5%→92.6% 2年生徒 91.3%→90.3% 3年生徒 94.8%→93.3%)
(保護者 92.8%→92.4% 保護者 94.3%→92.0% 保護者 92.7%→95.0%)

(11)「授業が分かりやすく理解できている。授業力向上を意識した教材研究を行っている。」(-2%)

中間時点に比べ、全学年で下落した。学年で見ると、1学年が著しく下落しており、義務教育を卒業し、高校における学習に苦慮している様子が伺える。丁寧で個に応じた学習指導が望まれる。

(1年 86.1%→77.3% 2年 82.5%→80.9% 3年 88.1%→91.4%)

(12)「「いのち」と真剣に向き合う教育が実践されている。」(-3%)

中間時点に比べ、生徒・職員が下落した。前期においては、生徒集会などで校長・生徒指導部の講話があり直接的に感じ取れていたが、後半にはそのような機会が少なかったことが原因ではないかと推察される。

(1年 87.2%→83.8% 2年 86.5%→82.4% 3年 89.6%→87.4%)

今年度においては、中間時の調査と比較し、最終調査で上昇した項目が3項目に対し、下落した項目が8項目あった。年間を通し、継続した指導と生徒の満足度の維持の難しさが浮き彫りとなった。